

福島原発事故の被害は、現在進行形

2011年3月11日の東日本大震災、それに伴う福島第一原発の事故により、東葛地域は<ホットスポット>と呼ばれるようになりました。現在でも高い空間放射線量が測定され、健康被害を心配しながら多くの人が暮らしています。※空間放射線量や除染計画が各自治体のホームページに公開されています。

放射線によってどのような健康被害が起こるのか？

ベラルーシ共和国では、チェルノブイリ原発事故の5年後から急激に小児甲状腺がんの発症が増えたといえます。また、放射能汚染地域では、身体の抵抗力が低下する、加えて未熟児や早産、死産、先天性異常など、出産に関わる影響もこの10年で増えてきているといえます。放射線が人体に及ぼす影響、特に低線量被曝や内部被曝については科学的に解明されていないことが多くあります。それならば、過去の経験に学ぶことが必要ではないでしょうか。

市民にできること、市政に求めること

ベラルーシ共和国の隣国、ポーランドでは、原発事故に対して政府の素早い対応がなされ、子どもの甲状腺がんの発症を防いだといえます。また、原発のない長野県・松本市には危機管理マニュアルがあり、安定ヨウ素剤の備えもしています。なぜそれができたのか、なぜそれが必要なのか、聞いてみませんか？

私たちの子どもを守るために、私たちができることを一緒に考えませんか？

私たちは、福島第一原発事故による放射能問題に関心がある、様々な分野の市民が集まって結成した実行委員会です。今回、市民として『安心して住み続けられるまち流山』作りに参加するため、このような講演会を行うことになりました。放射線災害から、私たちの子どもを守るためにできること、すべきことを一緒に考えませんか？



この講演会は、興味・関心のある方どなたでも参加できます。
多くの方のご参加をお待ちしています。

講師・菅谷昭プロフィール

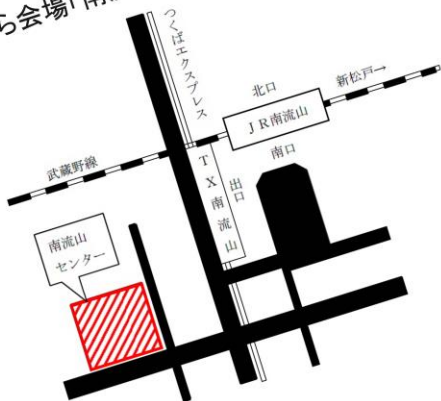
医師・医学博士（甲状腺専門）現長野県松本市長。

1996年から5年半ベラルーシ共和国に滞在。首都ミンスクの国立甲状腺がんセンター、1999年にはチェルノブイリ原発事故により高度に汚染されたゴメリ州の州立がんセンターで医療支援活動にあたり、その活動はNHKのプロジェクトXでも紹介された。

2004年に長野県松本市長に当選。2012年には、3選を果たし、チェルノブイリの経験を市政にも取り入れている。著書に『ぼくとチェルノブイリの子どもたちの5年間』『チェルノブイリ診療記』『子どもたちを放射能から守るために』『新版 チェルノブイリ診療記』『福島原発事故への黙示』『これから100年放射能と付き合うために』『原発事故と甲状腺癌』など多数。



駅から会場「南流山センター」までの地図



※会場施設内（和室）にて託児をご利用いただけます。

（無料）対象年齢は3歳～就学前です。ご利用を希望される方は1月18日（土）までに表に記載された連絡先にお申し込みください。

※会場へは出来るだけ公共交通機関でお越し下さい。

交通アクセス

JR武蔵野線 南流山駅下車 徒歩4分

つくばエクスプレス 南流山駅下車 徒歩4分

京成バス 松戸駅行・江戸川台駅行

『南流山センター』下車 徒歩1分

Go to minaminagareyama!

